

栃木県埋蔵文化財センターだより

# やまかいどう

特集

## とちぎテレビが やってきた!

### 埋文センター&発掘体験現場紹介

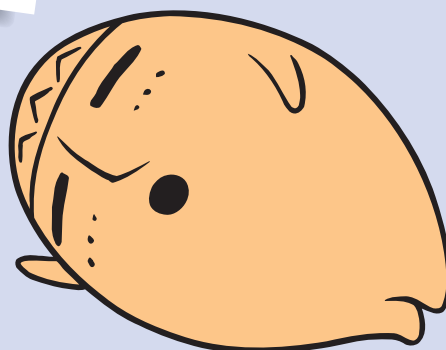


### 発掘現場レポート

発掘現場の最新情報!

### 史跡探訪

下都賀郡国分寺町天平の丘公園を訪ねて…。



《ヤヨ坊》▲  
大塚古墳群内遺跡出土遺物「弥生人の顔」をモチーフにした埋文センターのマスコットです。

No.  
**26**  
2000.12

# 特集

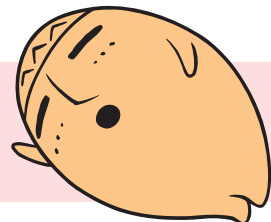
# とちぎテレビが やってきた!



とちぎテレビの番組取材が2日間にわたって行われ、埋蔵文化財センターと大野遺跡の発掘現場の様子が11月5日(日)にテレビで紹介されました。

## 1 日目

1日目の取材は埋蔵文化財の保護や調査研究を行っている埋蔵文化財センターで行われました。ここでは普及事業担当の篠原主任が整理作業、調査報告書作成の様子を順を追って紹介しました。



### 《洗淨室》

[レポーター]こちらでは、何をしていますのですか?

[篠原]まず、土器についている土を洗い落とします。ブラシも3種類あって、土器や石で使い分けます。その後、自然乾燥させます。



▲洗淨

### 《整理室》

[レポーター]この後どうなるのですか?

[篠原]乾燥が終わった土器の破片の一つ一つに、遺跡の名前や出土位置などを記入します。これを注記といいます。



▲注記

[レポーター]本当に小さいかけらもつなぎ合わせているんですね。

[篠原]注記したものを接合する作業です。

[レポーター]それでも全部のかけらが接合できるとは限らないですね。

[篠原]はい、土器のかけらがみつからなかった部分には樹脂を入れ復元します。石膏を使用することもあります。



▲樹脂入れ



▲実測

このあと「報告書」という本を作ります。そのためにはまず復元した土器の実測を行います。次に、報告書の図版を作ります。今、実測した図面の清書(墨入れ)をしているところです。



▲墨入れ



## 《写場》

[篠原]ここでは、復元した土器の写真撮影をします。



## 《収蔵庫》

[レポーター]ここには復元されたものがたくさんありますね。

[篠原]こちらには、3,600箱の遺物が収納されています。

[レポーター]この他にどんな仕事をされているのですか？

[篠原]『やまかいどう』の発行、インターネットでの情報提供、

さらに学校の出前授業や発掘体験なども行っています。

[レポーター]私たちが実際に発掘することが出来るのですか？

[篠原]現在、南那須町と高根沢町の大野遺跡で発掘を実施していますので挑戦してみたらいかがですか？

[レポーター]私でも出来ますか？

[篠原]はい。



## 2 日目

2日目の取材は高根沢東小学校の児童たちが発掘体験をしている大野遺跡（南那須町）で行われました。発掘作業について担当の初山係長が説明しました。



[レポーター]大野遺跡はどのような遺跡ですか？

[初山]県道のバイパス工事前の事前調査として開始しました。この遺跡は今から3,000年から5,000年前の縄文時代中期から後期と言われる時代の集落跡です。

[レポーター]どんなことに注意して発掘作業を進めればいいのか？

[初山]少しずつ掘って下さい。家や穴に埋まった土を取り除くと昔の形が出てきます。それとその土の中から土器や石器がたくさん出てきます。出土位置などを記録しますので、出てきたらすぐに取り上げないでそのままの状態にしておいて下さい。

## 《発掘体験を終えて》

[レポーター]今日は、何か見つかりましたか？

[男の子]土器がたくさん見つかりました。

[レポーター]いくつぐらい？

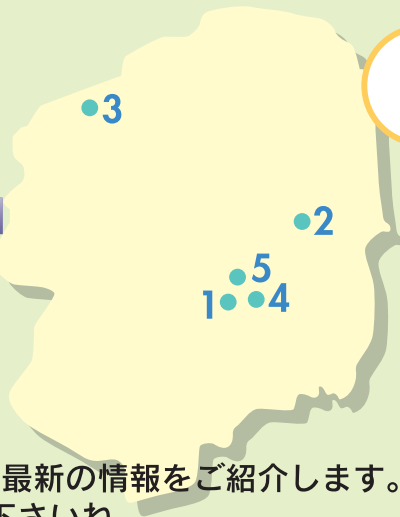
[男の子]5~10こくらい。



[レポーター]すごいねー。どうでしたか？昔の人が使っていた土器を発見した感想は？

[男の子]こんないろんな模様のついた土器を作るなんて、すごいなと思いました。

# 2000年 発掘現場 レポート



遺跡には  
ロマンがいっぱい  
つまってます



当センターが発掘調査している現場から、最新の情報をご紹介します。  
発掘現場を見かけたらどうぞ声を掛けて下さいね。

## 1 杉村遺跡 (宇都宮市東谷町地内)

この写真は古墳時代中頃（今から約1600年前）の溝跡を調査しているところです。溝跡は、県道拡幅工事の事前調査で確認されました。この風景は、私たちと過去の人々の生活の痕跡が重なりあっている様子をよく写しだしています。遺跡は私たちの生活の間近な所にあります。



## 2 大野遺跡 (南那須町鴻野山地内)

基盤目のように写っているのは何だと思いませんか。よく「この中に住んでいたのですか。」と質問されます。実は、グリッド調査といい、遺跡に積もった土を観察するためのものなのです。積もった土は人力で掘り下げ、この中から縄文土器の破片や石器が、毎日一輪車で2~3台分出ました。仕事上がりに土器を運びながら、土器はなぜ大量に出るのか、大量生産・大量消費社会に生きる我々に何かを考えるきっかけを与えてくれました。この冬もグリッド調査は続きます。





## 3

なかうち いせき

## 仲内遺跡 (湯西川ダム関連遺跡：栗山村大字湯西川地内)

仲内遺跡では、縄文時代中頃の竪穴住居跡が発見されました。住居内には、複式炉と呼ばれる、土器を埋め石できれいに囲んだ炉があります。このような炉は、同じ時期の東北地方南部に数多く見られることから、湯西川の人々と東北地方の人々との間に、何らかの交流があったものと考えられます。当時の人々は、この炉を囲み、食物を煮炊きし暖をとりながら、どんな話をしていたのでしょうか。

今回の発掘調査により、湯西川ではおよそ5,000年も前の縄文時代から、人々の暮らしが営まれていたことが分かってきました。



## 4

にしおさかべ にしはら いせき さんく

## 西刑部西原遺跡Ⅲ区 (宇都宮市西刑部・平塚町地内)

写真の竪穴住居跡からは、たくさんの土器が昔の人によって置かれたままの状態出土しました。このうち、興味深いのは写真左端と右端に別れて出土した須恵器甕です。この2つは割れ口がびたりと一致したので、同じ土器であることが分かりました。住居の高所に置いてあったものが転落して割れたとも考えられますが、昔の人が甕を割った後、わざと離して置いたとも考えられます。そうだとするとその理由が気になるところです。



## 5

すぎむら いせき じゅうに く

## 杉村遺跡Ⅻ区 (宇都宮市砂田町字吉原)

古墳時代の中頃(約1,550年前)の有力者のお墓(古墳)である「磯岡北3号墳」を調査中です。この古墳の周りにめぐらした溝の外側で石室を見つけました。内側の長さ67cm、幅19cmで、子供のお墓かもしれません。長さ30cmほどの石を3段積んで壁を作り、床には粘土と小さな丸石を敷いて、大きな石で蓋をして、隙間を粘土で丁寧にふさいでありました。残念ながら副葬品(死者に添えた品物)はありませんでした。3号墳の周りには土壙墓(穴を掘っただけのお墓)も3箇所あり、そちらは大人でも入れる大きさです。





# 歴史と花と文学とロマンがふれあう散策路 後編

下野国分寺跡と復元図／全国にある国分寺の中でも遺跡の残りが良いとされる下野国分寺。現在、町で史跡整備の発掘が行われている。



(前号からの続き)木の歩道を歩き右手に民家を見つ、標柱を曲がる。解説板の前で一息入れる。木の無いところは以前民家があったところで、南大門や中門があり、金堂に続く回廊が巡っていた。今、史跡整備の話が進んでいる。

林の中に入る。まず、低い土塁を越える。これは、下野国分寺の築地堀の跡である。平安時代(9世紀後半)の土堀の名残が累々と目で追える。

次にある土壇は塔の跡である。ここに七重塔がそびえていた。この場所を発掘すると、倒壊した際の瓦が厚さ60cmで積み重なっている。まさに「国破れて山河あり」を偲ばせる。

雑木林を進む。近頃珍しくなった落葉樹の木立は、木漏れ日が優しい。

私には、以前、下野国分寺を発掘していた時の、宝物のような風景の記憶がある。時は晩秋、冷たい雨と風の強かった翌日だったと思う。紅く色づく前の黄色い葉が、この林一面に降り積もっていた。昨夜来の雨に濡れて朝日に輝く様は、まさに金色の世界であった。あの風景はそれ以降見ていない。

金堂跡の土の高まりを左手に見ながら、鐘楼跡を越え、講堂跡を見る。

この南大門・中門・金堂・講堂の建物が一直線にならぶ寺の形式を、東大寺式伽藍配置という。因みに国分寺の総本山は奈良の東大寺である。

つちのえとらぐわんごうじ ほふし みづか  
十年戊寅に元興寺の僧が自ら嘆く歌一首

しらたま  
白玉は人に知られ得ず

知られずともよし

知らずとも我れし知れば

知らずともよし

上の一首は、或いは「元興寺の僧、独覚にして多智なり。いまだ顕聞あらねば、衆諸押侮る。これによりて、僧この歌を作り、自ら身の才を嘆く」といふ。

巻第六の一〇一八

万葉集には青年僧の思いが綴られる。

国分寺の林を抜け、辻に立つ。手前の畑と奥の畑を分ける東西の畦。そこに国分寺創建当初の堀があった。そして、その奥に見える林。国分寺の北辺である。国分寺は南北458m、東西413mの



陽だまりの中の国分寺／子供の頃のように、大の字に寝てみよう。きっと、忘れていた風景が見えてくる。

下野国分二寺幻影と烏瓜／烏瓜はウリ科の植物。樹木に蔦を伸ばし、夏の夕方にレース編状の白い花が咲く。秋に実を付け、小槌に似るためお金が貯まると言われている。



敷地に立っていた。この台地一面が国分寺のために用意された土地なのである。

T字路を右に進む。ここには荒れ地が点在している。その中に紅々と輝く烏瓜を見つけた。何か嬉しくなる。台地を下る。下り際に見えるのが、しもつけ風土記の丘資料館の屋根である。資料館がある台地は尼寺の台地である。奈良・平安時代、大きな仏教行事は僧寺で行われた。この谷を越えて尼さんが行き来したのである。これでは坊さんと尼さんは仲良くしてはいけないとの通達があったのがわかる。と、世俗的な事を考えて、そば屋の前を進み、道を右に折れると、資料館に出る。

この辺りの広場は、春は桜、秋は菊と、花祭りが盛大に行われる。かつて尼さんは般若湯を片手に、花を見たのであろうか。そんなはずは無いと願いたい。

あしひきの山桜花日並べて

かく咲きたらばいたく恋ひめや

卷第八の一四二五

古の万葉歌人、山部宿禰赤人の歌である。今では花より団子ならぬ、花よりカラオケである。

尼寺跡は昭和45年に、全国に先駆けて史跡整備された公園である。昼下がりに、若いお母さんが、子供を遊ばせてくつろいでいる。

駐車場に戻って丁度一周である。

如何であろうか。遅く起きた休日にも散策されてみては。歴史・花・文学・ロマンがふれあう天平の丘公園である。

尼寺前駐車場—(5分)—淡墨亭—(10分)  
—万葉歌碑—(10分)—伝紫式部の墓—  
(5分)—万葉植物園—(5分)—大賀蓮池—  
(10分)—民俗資料館—(10分)—国分  
寺跡—(10分)—しもつけ風土記の丘資料  
館—(5分)—尼寺公園前駐車場  
(今回のコースは赤字部分)

※お酒のこと。お坊さんはお酒を飲んではいけないので、般若が飲むお湯と称してこっそり飲んだという。



### とど 一手に止むるを極めれば寺となる一

今から1,259年前の天平13年(741)、聖武天皇は仏教の力で国を平和に治める「鎮護国家」の発願をされ、全国に僧寺・尼寺の国分二寺が建立された。

当時は日本に仏教が入って日が浅い時期でもあり、仏教は、宗教と同時に学問そのものでもある時代であった。寺は今日的な「葬式」という観念には程遠い、教典を研究し儀式を行う場であったのである。また、当時の最新知識は大陸から仏典とともに輸入され、漢方医術や土木技術は僧侶の学問領域とされていた。つまり、今で云えば、大学・病院・建築事務所・文化センター等の機能をあわせ持つものが、国分寺であったと言って良い。そして、その頭脳集団として、国分二寺には僧寺20人、尼寺10人の超エリート学問僧がおかれていた。

因みに手首の脈拍を測る意の「寸」と、止まるの変化した「土」により、役所や僧侶の居る所を表す会意文字が「寺」である。

### 一七重塔炎上一

…時は10世紀…。

轟音とともに塔に火が着いた。原因は何か。灯明の火が移ったか。落雷か神火か。今は詮索している時ではない。振り返ると伽藍のそこ此処から火の手があがる。今、北の建物も焼け落ちたと知らされた。何をすればいい。一番大切なもの…金堂へ向かうか。それにしても、熱い…。若い僧が仏像を運び出している。背後から悲鳴が聞こえる。思わず塔の方を振り返る。陽炎にも似た猛火の中に私が見たものは、豪雨の如く降り注ぐ瓦と火の粉。そして、崩れ落ちる七重塔。立ち尽くす僧や官人。誰かが叫ぶ。嗚呼、極楽浄土はいずくんぞ。今、栄華の記憶は土の下にある。

風に乗り漂う葦草菌の花の香

風に揺れ鳴り響く風鐸の音

### 一古代瓦の基礎知識一

塔跡付近を散策していると、足下に瓦の破片が見つかる。良く見ると布目がある。古代瓦を布目瓦という所以である。

この布目は、瓦を作る際、瓦の型に粘土が密着しないように敷いた布の痕跡である。だから、本来の布目とは凹凸が逆になっている。また、布目の反対の面には、格子や縄の模様がある事がある。これは瓦を作った工人が、粘土板の瓦を叩き締めた時の道具の痕跡である。

因みに、史跡を勝手に掘ったり、土器や瓦などの遺物を持ち出すことは、法律で禁じられているので悪しからず。

金色に輝く塔の相輪

学問僧の精悍な顔立ち

### 一 国分寺の鉄人 —

下野国分寺の発掘調査を振り返るとき、忘れてはならない鉄人がいる。

鉄人は、約15年の長きにわたり、国分寺の解明に昼夜を問わず取り組んだ。鉄人は言う。「私は、とある偉大な先生の考えを、ただ検証しただけだよ。」

そんなことはない。土日も休まず、一つ一つの瓦を分類し、その叩き目を記録し、瓦を焼いた窯跡の資料と照合する毎日。そこから導き出された瓦の流通システム。解明された下野国の律令体制の一端。

本来、考古学はこうした地道な努力により成果が得られる学問である。鉄人のお陰で、瓦礫の山の「瓦」は、宝の山になった。鉄人は苦勞を語らない。鉄人に乾杯。

慈悲深い丈六の釈迦如来の御姿

国家安泰を祈願する読経の声

(本編文・コラム・写真・絵／篠原祐一)



# 頭の体操をしましょう

## クロスワードパズル

カギを参考に二重マスの字を並べ替えて下さい。  
(クイズの解答はEメールまたはハガキで)

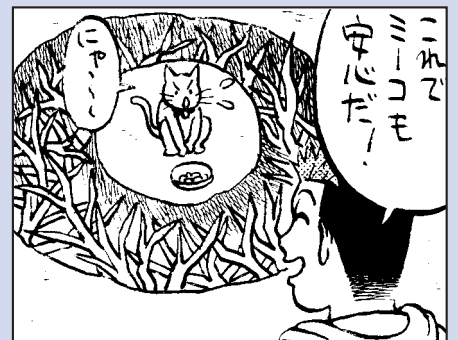
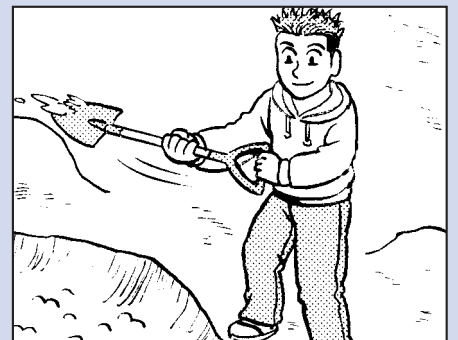
1			2	3
		4		
5	6		7	
8		9		
10				

### 《ヨコのカギ》

- 1 三島由紀夫の名作『○○騒』
- 2 男の○○年42歳、女の○○年35歳。  
節分には○○祓い
- 4 花火の時の掛け声のひとつ
- 5 美しく変化させること
- 7 ゆく○○、くる○○
- 8 伊豆の温泉地
- 10 21世紀のこと

### 《タテのカギ》

- 1 ぬき足さし足○○○○
- 2 宇宙戦艦○○○○
- 3 くやしがつて泣くこと
- 6 味方すること
- 9 ○○○をたたむ  
(商売をやめること)

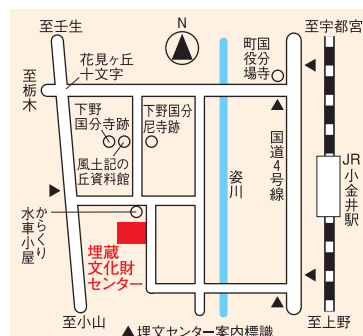


### 編集後記

今回の特集で発掘の仕事は根気がいり、貴重な文化遺産を後世に伝える重要な仕事であると再認識しました。

ミレニアムと騒がれた20世紀もあと少し。今年も何かと色々な事がありました。新世紀は明るい年になりますように。今後とも引き続き埋蔵文化財センターをよろしくお願ひ致します。

編集 (財)とちぎ生涯学習文化財団  
埋蔵文化財センター  
発行 栃木県埋蔵文化財センター  
〒329-0416  
栃木県下都賀郡国分寺町大字国分乙474  
TEL 0285-44-8441 (代) FAX 0285-44-8445  
E-mail webmaster@maibun.or.jp  
URL http://www.maibun.or.jp/  
印刷 ヤマゼン コミュニケーションズ(株)



### 《埋蔵文化財センターへのご案内》

- JR小金井駅から  
約4km、車で約10分
- 東武壬生駅から  
約6km、車で約15分
- 東武栃木駅から  
約9km、車で約20分